

SA-900

6L6真空管 A級シングルプリメインアンプ

取扱説明書



この度はSoundfort製品をお求め頂き、誠にありがとうございます。

本製品を安全に正しくお使いいただくために、ご使用前に必ず本
取扱説明書をよくお読みください。

Soundfort
www.soundfort.jp

1. お使いになる前に(警告事項)

安全上のご注意：警告事項



警告

以下の内容を見逃して誤った取り扱いをすると、人が死亡または負傷する可能性があります。

1. 真空管の発熱・高温・やけどに関する警告

以下の事項は必ずお守りください。

以下に反した状況で使用をされると**火災や感電、やけどの原因**となります。

- 本機は**使用中大変高温になります**(真空管は150°C以上、真空管カバーは50°C以上、中央のカバーおよび後部に3つ並んだトランスカバーも高温になります)。

本機の上部には絶対に物を置いたり、上にカバー等をかけたりしないでください。火災の原因となります。

- 本機は**必ず真空管カバーを取り付けたままご使用ください。**使用中は真空管が非常に高温になるため、直接触れるとやけどの原因となる他、衣服や物が触れると火災や大やけどの原因となります。特にお子様やペット等が触れられないように、設置場所には充分注意してください。

- 本機は**風通しの良い場所に設置してご使用ください。**書棚の中や机の下など、**熱がこもる場所では絶対に使用しないでください。**過熱により火災の原因となります。

- 本機の周囲には熱に弱いプラスチック製品や紙、木製品のほか、花瓶や水などが入った容器を置かないでください。火災や感電の原因となります。

- 使用する前に本体上部、真空管カバーの上部や内部、通気孔にホコリがたまっていないか確認し、ホコリがたまっている場合は電源を入れる前にホコリを取り除いてください。

[真空管カバーの取り外し方 → P.9]

2. 異常時の使用中止

- 使用中に万一、次のような異常が生じた場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると火災や感電の原因となりますので、直ちに弊社へご連絡または修理をご依頼ください。[ご連絡先 → P.11]

- ▶ 煙が出たり異臭がする
- ▶ 本機の内部に水(その他の液体)や異物が入った
- ▶ 落としたり、本体を破損した

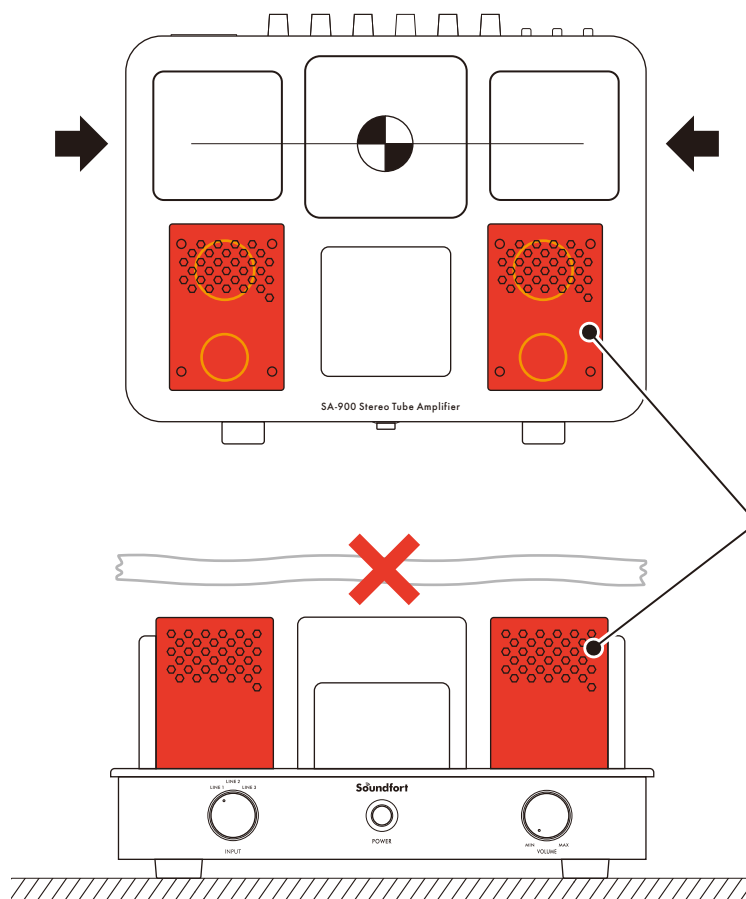
1. お使いになる前に(警告事項)

3. 電源の種類および電源コードの取扱い

- 本機は家庭用「交流(AC) 100V」以外の電源では使用しないでください。それ以外の電源電圧や船舶等の直流(DC) 電源には直接接続しないでください。故障や火災、感電の原因となります。
※本製品は日本国内のみで使用でき、海外では使用できません。
- 電源コードを傷つけないでください。(重い物の下敷きになる／無理にねじ曲げたり引っ張ったりする／加工する／加熱する等)
電源コードが破損(芯線が露出、断線)すると火災や感電の原因となります。
- 電源プラグにホコリがたまらないようにしてください。電源プラグとコンセントの間にホコリがたまると火災や感電の原因となります。定期的に電源プラグをコンセントから抜いてホコリを取り除いてください。

4. 分解・改造の禁止

- 本製品の裏蓋を開けたり、改造等は絶対に行わないでください。故障や感電の原因となります。特に本製品は内部に高電圧の電源を有しており、内部回路への接触による人体の損傷や火傷などの責任は負いかねます。



SA-900は重心が後ろ寄りにあります。

本体を持ち上げる際は、腰を落として本体左右の「 \rightarrow \leftarrow 」付近を持ち、バランスを崩さないように注意してゆっくりと持ち上げてください。

使用中は真空管カバーおよび後部のトランスカバーが非常に高温になります。

火傷や火災の原因になりますので、決して手で触れたり、本体の上に物を置かないでください。

1. お使いになる前に(注意事項)

安全上のご注意：注意事項



注意

以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が負傷したり物的損害が発生する可能性が想定されます。

1. 設置・移動に関する注意

- 本製品は製品の構成上重量が重くなっております。設置や移動の際は、必ず電源コードを本体から外した状態で、足場を確保し慎重に行なってください。腰を痛めたり、落下により重大なケガや損傷の危険性がありますので、十分ご注意ください。
- 本製品は本体後部のトランスが最も重いため、持ち上げる際は本体左右の中央ではなく、後ろ寄りを持ってください。持ち上げる際にバランスを崩すと大変危険です。
- ぐらついたり傾斜面など不安定な場所や、湿気やホコリの多い場所、調理器具や加湿器等の油煙や蒸気が当たる場所へは設置しないでください。落下によるケガや発煙、発火、故障の原因になります。

2. 電源コードおよび電源ヒューズに関する注意

- 電源コードは以下のような取扱いはしないでください。破損による感電や発火の原因になります。
NG：プラグを抜く時にコードを引っ張る・ぬれた手でプラグを抜き差しする
NG：熱器具のそばに近づけて設置する
- 電源ヒューズは必ず規定のものをお使いください。規定を越える値(アンペア数)のものを使用すると火災や事故の原因となります。[ヒューズの交換 → P.9]
- 長期間ご使用にならない時は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。不意に電源ボタンが押されて電源が入り、火災等の原因になります。
また本体の移動やお手入れは、電源を切って電源プラグをコンセントから抜き、真空管および本体が十分に冷えてから行ってください。

3. 音量に関する注意

- 電源を入れる際は本体のボリュームつまみで音量を最小にしておいてください。予想以上に大きな音が出て聴力障害等の原因になる場合があります。
- 長時間大音量でお聴きになると聴力障害の原因になります。ご使用時は適切な音量で音楽を鑑賞ください。

2. 保証について

本製品は取扱説明書に記載された注意事項等に添った正しい使用状態で保証期間内に故障が生じた場合は、弊社にて無償で修理致します。但し、以下の様な場合、保証の対象外となりますのでご注意ください。この場合の修理は全て実費とさせていただきます。

- 1) お客様による本製品のパーツ交換を含む改造を行った場合
- 2) 本製品純正品以外の真空管を使用した事によりアンプ本体や他の真空管に故障や損傷が生じた場合、または接続された機器により不具合が生じた場合
- 3) 取扱説明書に記載されていない操作方法やご使用上の誤りによる故障や損傷
- 4) 輸送、移動、落下等による故障や損傷
- 5) 落雷、地震、風水塩害その他の天変地異や、公害、火災、異常電圧による故障や損傷
- 6) お客様の希望による真空管の交換や調整、その他メンテナンスのご依頼
- 7) 業務用など一般家庭用以外での使用による故障および損傷

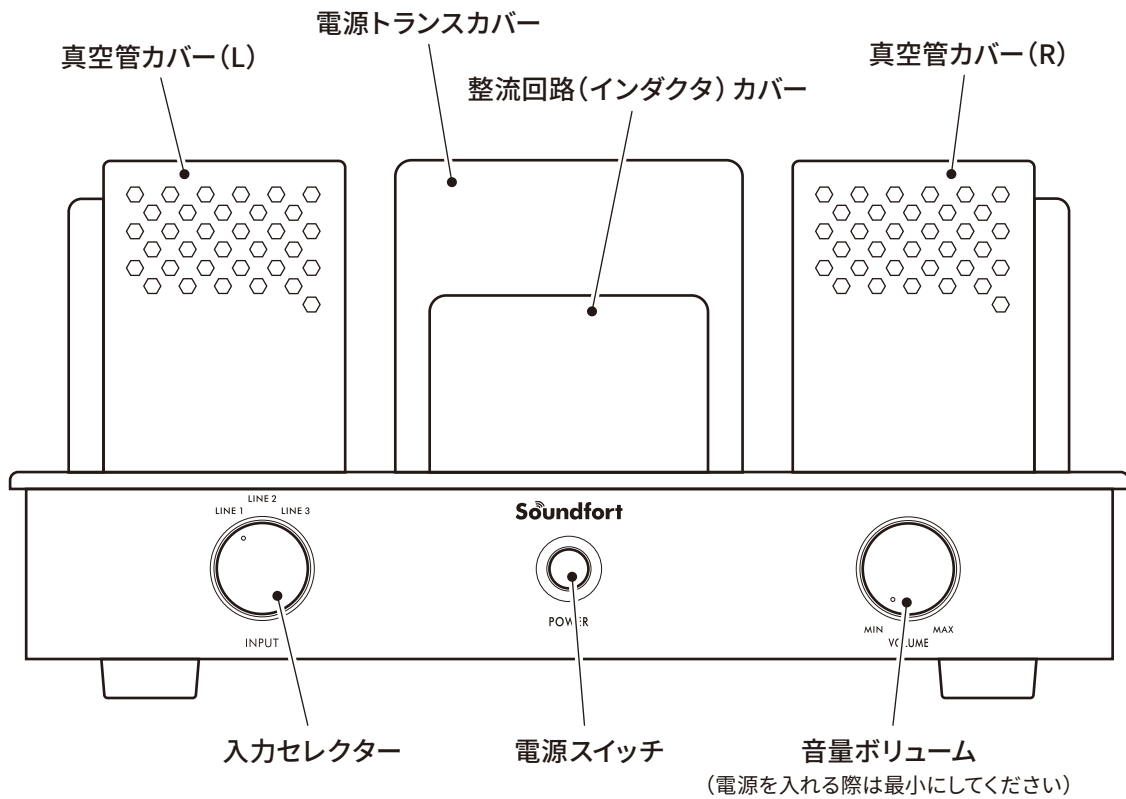
※ 本機のご使用によって生じた、商業上及び資産上その他いかなる損害に対しての賠償責任は負いかねますのでご了承ください。

3. 各部の名称および機能

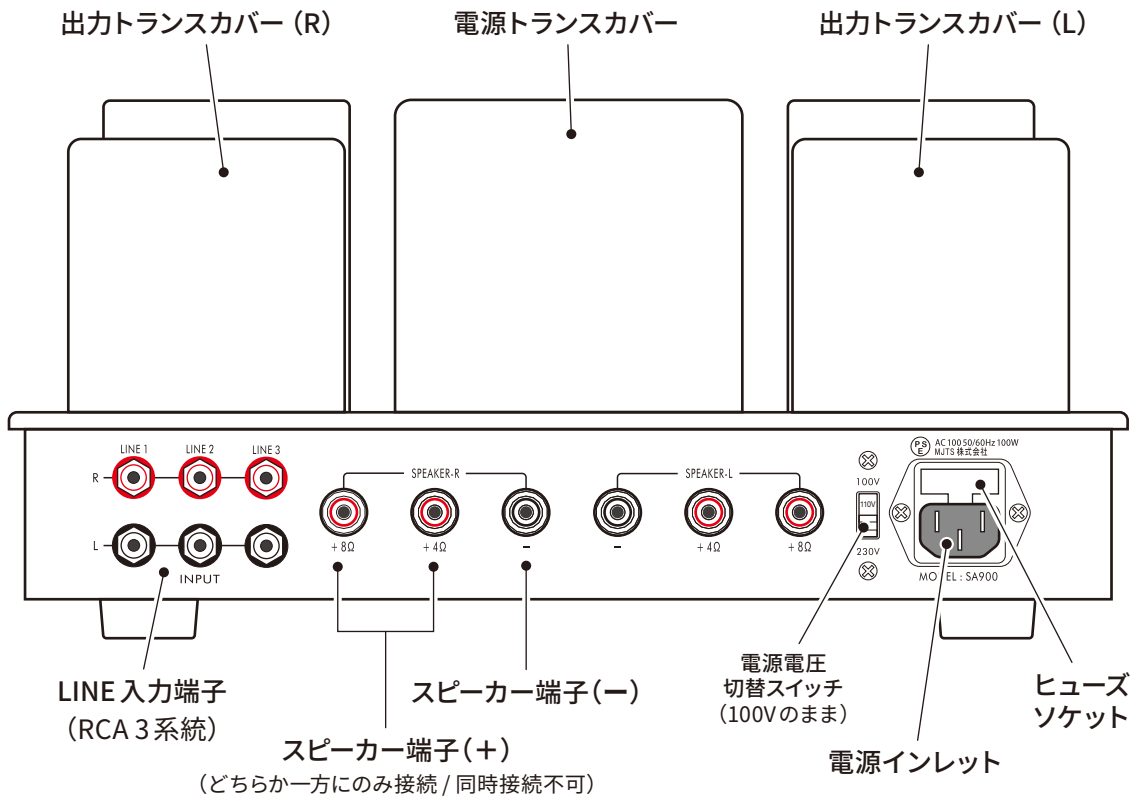
本体前面



大変高温になりますので、本体の上には絶対にものを置かないでください!



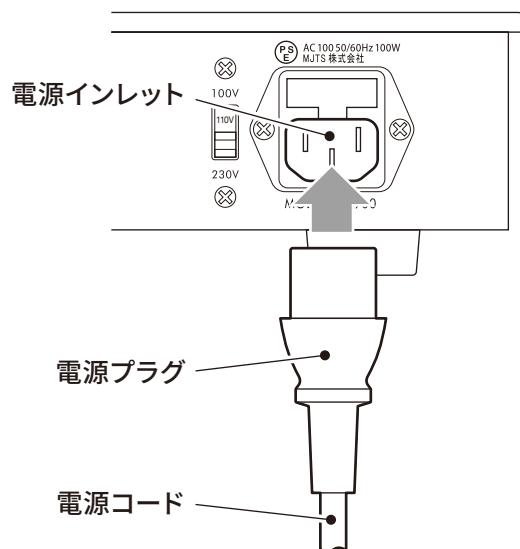
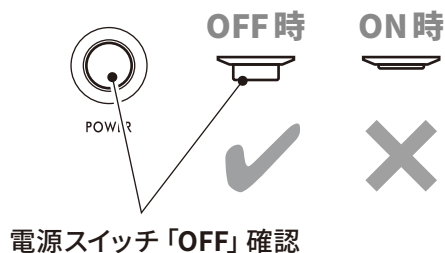
本体背面



4. 接続方法

電源コードの本体への接続

- 1 予め電源スイッチがオフになっていることを(押し込まれていない状態)確認します。
- 2 付属の電源コードを本体背面の電源インレットに奥まで確実に差し込んでください。(電源コードはコンセントから外した状態で行なってください)

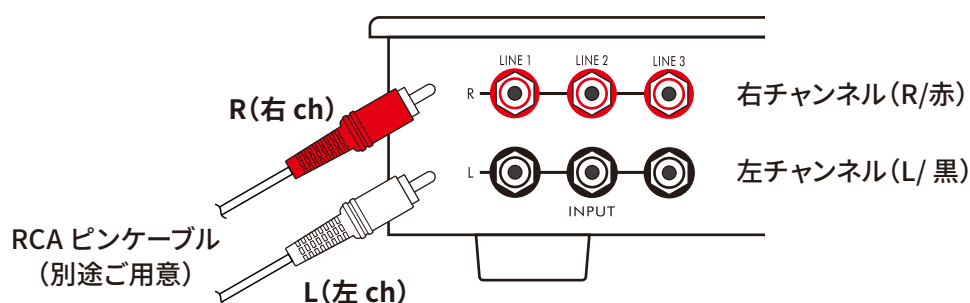


LINE 入力端子(外部機器)の接続

⚠ 本機および接続先の機器の電源がOFFになっていることを確認の上、接続を行ってください。

- USB DAC や CD プレーヤー等の「LINE 出力端子」と、本機の「LINE 入力端子」間を、RCA ピンケーブル(別途ご用意ください)で接続します。

本機のLINE入力は3系統あり、それぞれ、上が右チャンネル(R/赤)、下が左チャンネル(L/黒)になります。



※ 本製品はアナログレコードプレーヤーからの「Phono入力(MM/MC)」には対応しておりません。

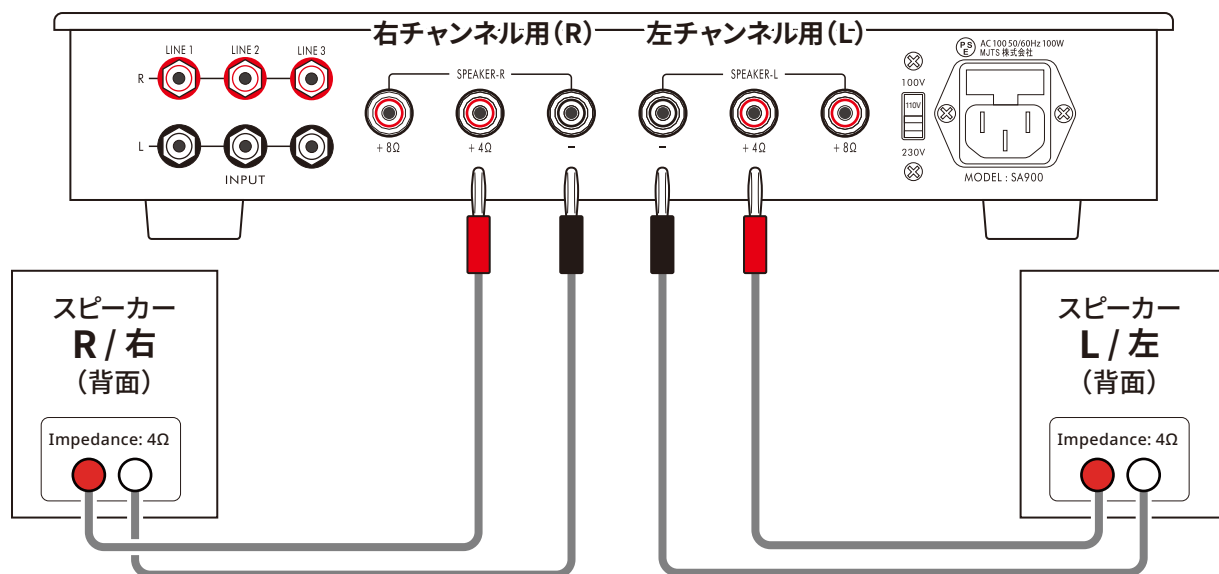
アナログレコードプレーヤーのうち、「Phonoイコライザー(フォノイコライザー)」を内蔵し「LINE 出力端子」があるプレーヤーの場合は、そのまま本機の「LINE 入力端子」に接続可能です。

Phonoイコライザーを内蔵していないアナログターンテーブルを接続する場合は、別途Phonoイコライザーを介し、イコライザーの「LINE 出力端子」から本機の「LINE 入力端子」に接続してください。

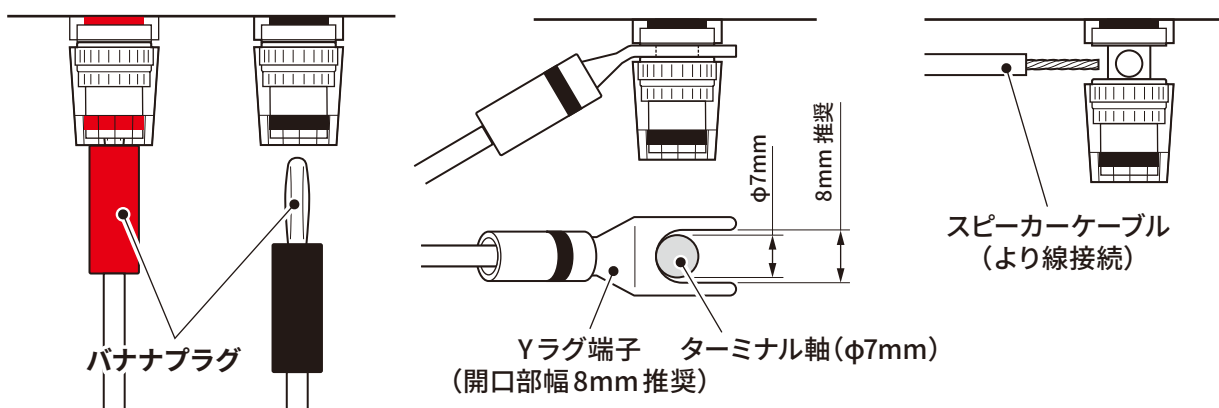
4. 接続方法

スピーカーの接続

- ⚠ 電源がオフになっていることを確認の上、スピーカー端子にスピーカーケーブルを接続してください。
- 本機のスピーカー端子は「バナナプラグ」、「Yラグ端子（開口部8mm 推奨）」及び「裸より線」に対応したネジ式ターミナル（軸径： $\phi 7\text{mm}$ ）です。
- 背面側から見て、右列が左チャンネル用（L）、左列が右チャンネル用（R）となり、「4 Ω 」と「8 Ω 」と書かれた赤い端子が「+（プラス）」、黒い端子が「-（マイナス）」になります。



- 「+（プラス）」側端子は「4 Ω 」と「8 Ω 」の2つありますが、接続するスピーカーの定格インピーダンス（ Ω ）と同じインピーダンス（ Ω ）の端子に接続してください。
尚、スピーカーの定格インピーダンスが「6 Ω 」の場合は、「+」端子は初めは「4 Ω 」の端子に接続してください。（正常動作を確認後、音の好みに応じて「8 Ω 」の端子に接続先を変更しても構いません。）
- ⚠ **ご注意：**片側の4 Ω と8 Ω の端子両方に複数のスピーカーを同時に接続しないでください。過大電流等で故障や損傷の原因となります。
- ⚠ より線での接続やYラグ端子を使用の際は、隣のターミナルと接触、ショートしないようご注意ください。



5. 使用方法

電源を入れる

- ⚠ 電源コードをコンセントに差し込む前に、電源スイッチがオフ(出っ張った状態)になっていることを必ず確認してください。



- ⚠ 電源を入れる前に、本体の上にもものが置かれたりカバーがかけられていないこと、近くにカーテン等燃えやすいものがないこと、真空管カバーやカバー内部にホコリ等がたまっていないことを必ず確認してください。

- 1 LINE入力、スピーカーが確実に接続されていること、ボリュームが最小になっていることを確認し、本体前面の電源スイッチを押し込みます。
- 2 しばらくすると「カチッ」とリレー音がして、真空管のヒーターが点灯します。
真空管が温まり動作が安定するまでそのまま1分～数分ほどお待ちください。
※ 本製品には電源ランプはありません、電源が入った状態になると真空管のヒーターが点灯します。

音楽を聴く

- 3 入力セレクターで聴きたいソース／再生機器(LINE 1, LINE 2, LINE3)を選びます。
 - 4 接続した再生機器を再生モードにして徐々に本体のボリュームを上げ、お好みの音量に調整してください。
- ※ 再生機器によってLINE出力電圧が異なる場合があります、その場合再生される音量も異なります。
再生機器のヘッドホン出力端子や出力可変式LINE出力に接続した場合は、「再生機器側のボリューム」を最大近くに上げると、通常のLINE出力レベルに近づきます。
出力が非常に大きな再生機器の場合、歪みが発生し音割れが生じる場合があります。
- ※ 本製品はダイナミックレンジの大きな音源(低域が多く入っている音源等)を大きな音量で再生すると、出力トランスの仕様上、歪みが発生し、音割れなどが生じる場合があります。
- ※ 動作中に衝撃が加わると、真空管特有の「キーン」という音(マイクロフォニックノイズ)が生じます。

電源を切る

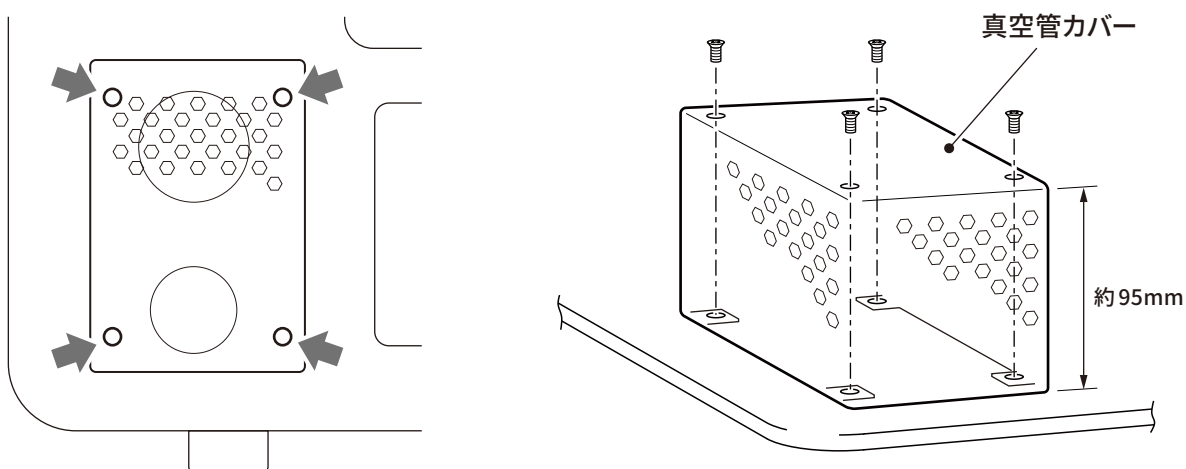
- 5 再生機器の再生を停止し、本体のボリュームを最小にした後、電源スイッチを押して電源を切ります。
- ※ 電源を切った後、本体内からかすかな音がする場合があります。これは真空管やトランスの発熱で高温になった本体が冷える際の金属等の収縮によるもので、異常ではありません。
- ※ 電源を切った後しばらくは真空管カバーや本体上部は大変高温になっていますのでご注意ください。

6. メンテナンス

真空管カバーの取り外し／取り付け

⚠ 本製品は身体へのやけどや火災等を防ぐため「真空管カバー」が取り付けられた状態で出荷されています。清掃や真空管の交換等の理由以外でカバーを取り外してのご使用は避けてください。

- 1 電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、真空管カバーおよび本体が十分に冷えていることを確認します。
- 2 真空管カバー上部4隅の円形の穴にプラスドライバー（直径5mm以下、長さ10cm以上）を差し込み、カバー底部を固定している4カ所のネジを取り外し、真空管カバーをまっすぐ上に持ち上げて取り外してください。



電源ヒューズの交換

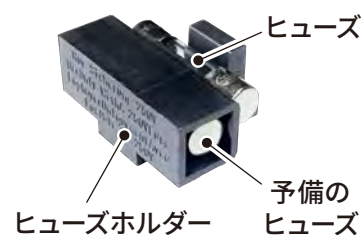
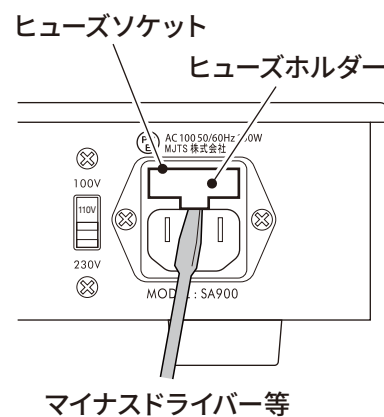
● 本体背面の電源インレット上のヒューズソケットに、ヒューズの入ったヒューズホルダーが装着されています。

- 1 ヒューズホルダー下部の隙間にマイナスドライバーの先端等を差し込んで手前に引き出し、ヒューズホルダーを取り外します。
- 2 ヒューズホルダーには、予備のヒューズが1本格納されています。切れたヒューズを取り外して予備のヒューズと交換し、ヒューズホルダーにはめ込み、ヒューズホルダーを本体のヒューズソケットに差し込みます。

ヒューズ規格：250V(または125V) タイムラグ型 T1A 3A (50x20)

⚠ ヒューズを交換後に電源を入れると再び切れてしまう場合、本体に異常がある可能性がございます。

その場合は直ちに使用をやめ、コンセントから電源プラグを抜いて、修理をご依頼ください。[ご連絡先 → P.11]



7. 製品仕様

回路形式	: 真空管A級シングル ステレオプリメインアンプ
使用真空管	: 電力増幅管(後段) 6L6WGS 5極管 ×2本 電圧増幅管(前段) 6N9S 双3極管 ×2本 固定バイアス式
定格出力	: 真空管 = 6W × 2(8Ω)
周波数特性	: 30Hz ~ 35kHz ± 2dB
S/N比	: 88dB
入力端子	: LINE 入力 3系統(RCA 端子 × 3)
出力端子	: バナナプラグ対応 ネジ式ターミナル(4Ω, 8Ω)
消費電力	: 最大 95W (待機時 50W)
外形寸法	: 横幅 338 × 奥行 248 × 高さ 160 mm
重量	: 10kg
付属品	: 真空管カバー(取付済み)、電源コード、取扱説明書、保証書

※仕様は予告なく変更する事があります。

8. スペアパーツ

真空管

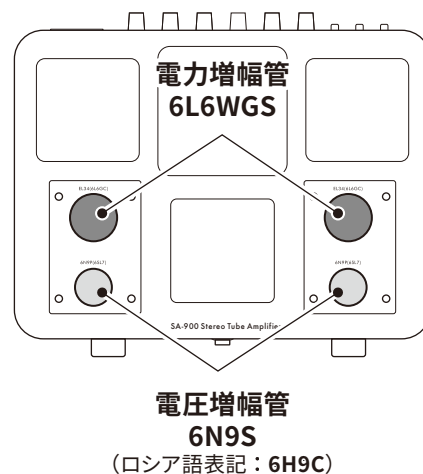
- 電力増幅管 6L6WGS (中国製) 1セット(2本)
- 電圧増幅管 6N9S (ロシア製) 1セット(2本)

※ Soundfort ホームページ (<https://www.soundfort.jp>) にて販売しております。(各真空管は左右2本セットでの販売となります)

真空管の互換性について

※ 本製品は本体付属およびスペアパーツの真空管での動作のみを保証し、互換性のあるそれ以外の真空管での動作およびご使用による安全性は保証いたしかねます。

※ 本体の電力増幅管ソケット部に「EL34(6L6GC)」と記載がありますが、6L6GCおよび EL34 互換の真空管は、銘柄やバリエーションによって高さが異なり、**付属の真空管カバー(高さ約95mm)が装着できない場合があります**のでご注意ください。





Soundfort
www.soundfort.jp

販売元・お問い合わせ先

MJTS 株式会社

〒252-0804 神奈川県藤沢市湘南台 5-4-8-203

Soundfort ホームページ <http://www.soundfort.jp>

お問い合わせフォーム <https://www.soundfort.jp/inquiry/>

メールアドレス soundfort@mjts-corp.com